

## 越後荒沢岳 中ノ岐川滝沢～花降沢

佐貫

【日時】2006年9月9日（土）～10日（日）  
【メンバー】大野（L）、棚橋、田辺、佐貫

滝沢は大野さんが去年の9月に計画するも、現地雨天中止。宿題の沢となっていた。数少ない記録がいずれも滝沢遡行・グミ沢下降というルートをとっているのは大系の影響だろうか。今回は、昨年大野さんが考えた通り遡下降のつながりやすさ、合理性と記録未見の花降沢の遡行価値という点からグミ沢ではなく花降沢を下降するルートとなり、これは大当たりだった。

三週連続で中ノ岐林道に足を踏み入れ、雨池橋から歩くこと1時間弱で滝沢の出合である。前週、前々週よりも水量は多いようだ。入渓点は大きな滝が林道で分断されているところで、遡行開始と同時にナメっぽい滝がずっと続く。3～400mはありそうな大ナメ地帯は岩の色も明るく、天気も良いので最初から気分が盛り上がる。すると前方に40mくらいの立派な滝が見えてきた。これは高度感もあり傾斜もかなりあったので直登は考えられず、左岸側の手前の灌木帯を少し登り、落ち口に向かって続くバンド状を斜上し、最後はちょこっと滝の右側を登って抜けた。この先、沢はゴルジュとなり、釜を持つ5m前後の滝が続く。いずれも一旦釜に入って取り付き、水線のすぐ横を登って越えられる。二つ目の大滝はすぐに出現する30m程の大きさで、どうも逆層らしく見えるため、ザイルを出して棚橋さんが右岸をやや手前から巻き気味に登っていった。

沢へ戻ると、さっきのゴルジュと似たような感じになり、今度はチョックストーンを抱えた4m滝がトロの向こうに落ちているのが分かる。大系では20m泳いで取り付くとあるところのようだが、埋まっているのか泳ぐのはせいぜい2～3m程度。しかし水勢がえらく強いので、流心を這い上がるのは大変だ。大野さんはよくここを上ったものだ。後続はザックを荷揚げしてもらい、お助けも出してもらって何とか通過した。頭のとっぺんから水を浴び、全身ずぶぬれだ。

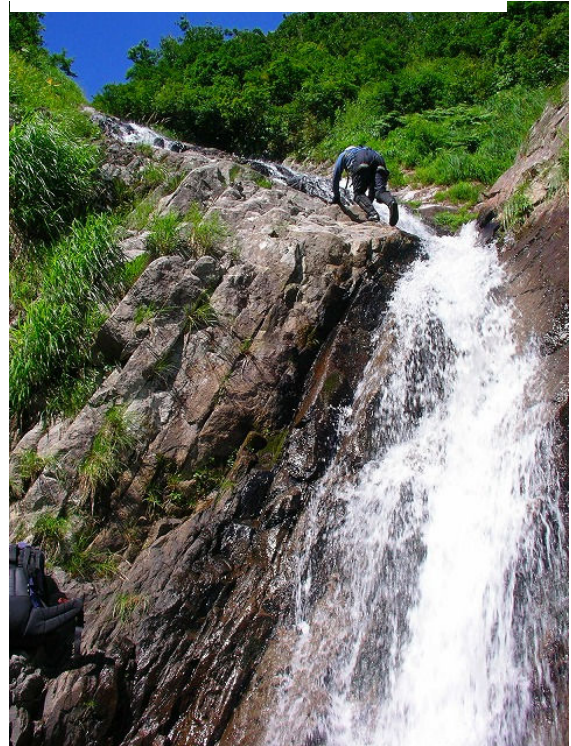


## 釜を持つ小滝が続くゴルジュ

この先も相変わらず短い間隔で滝が続き、「滝沢」の名前に偽り無し！と確信しながらさらに足を進める。沢が右に曲がるとそこにもまた20mの滝。ここは左側を何とか行けそうだがヌメヌメした感じ。ザイルを引いて大野さんが取り付く。フォローで登っても最上部は手がかりに乏しく一歩が出しづらい。かなり怖かった。その後いくつかの滝をやり過ごすと二俣である。二俣から左に入ってすぐのところに、真ん中が限りなく薄い雪渓がかかっている。崩れてもおかしくない感じであったため、右俣との中間尾根から小さく巻き、最後は20mほどの懸垂で沢に降りた。やや開けた感じになってきたが、上流からは雪渓の気配。ここから花降沢へ抜けて泊まれる場所まで降りるにはそれなりの時間がかかることが予想されたため、少々早い幕場探しを始める。結局、左岸のちょっとした平地の土木工事を行い、雪渓のすぐ下流ではあったが快適な寝場所を造成した。夜は冷気が下りて来て非常に寒く、震えながら焚き火に当たった。

日曜は朝から雪渓くぐり、何度やっても嫌なものだ。沢が開けてくると二段30mの滝が登場し、下段は左から。上段（こちらの方が大きい）は右からザイル使用。20m滝、15m滝を過ぎると、左手から稜線まで一直線に続くかのようなスラブの沢が入って来た。明るく、斜度も適度にあってフリーでスラブ登りを楽しむにはもってこいの沢だ。地形図ではこの沢の行く末は岩マークとなっているため、こんなところ入っちゃって大丈夫なのかなーと思いながらも、「何とかなるでしょう」というリーダーの判断により進入決定。登川金山沢とか鷹ノ巣C沢の幅を狭くしたような感じの快適なスラブに笑いが止まらない。「イヤーいいねえ！」と登り続け、最後に水を汲んでちょっとだけ藪を漕ぐと、すぐに花降沢との間の稜線に出た。うーん素晴らしい。

## 名前の通り滝だらけ



花降沢へは相談の結果、尾根を少し下ってから右俣の支流を目指すことにした。大系では花降沢は滝が多く、灰ノ又沢の周辺で最も遡行価値が高いとあったので、果たして下降したらどうなるかという心配から、上流部に予想される滝を少しでも回避しようという心積もりである。幸いなことに、下降した枝沢は滝が一つも無い完璧に下降向きの沢であった。右俣に合流し、少し降りると幅広の滝があり、高さは20mくらいか。階段状なので問題なくクライムダウンできる。振り返って見ると青い空に発達した岩盤と白い水しぶきが映え、実にフォトジェニックだ。花降沢ってこんなにきれいな沢だったのか。灰ノ又沢から見る出合は正直なところショボい印象だったので、この光景とのギャップは大きい。大系の「地形図の最初の滝記号にあたり、兩岸は絶



壁ですりばちの底のような所に該当する 15m のハング滝を懸垂で降りようとして、右岸の灌木に捨て縄をかけようと物色していたら、古〜いシュリングを発見してビックリ。この沢を下った先人は、やはりいたのだ。なお、下降した部分には雪渓は一箇所残るのみで、大系の「雪が消えるのは比較的早い」という記述に納得した。

灰ノ又沢は先週通ったばかりなので、巻き道も記憶に新しくスタスタと通過。そして二週間前と同じように銀山平に戻ったところで雨が降り出し、白銀の湯につかる頃にはものすごい大嵐となっていた。

今年の新潟シリーズにまたまた素晴らしいルートをつけ加えることが出来、大満足の週末であった。記録のない（少ない）沢はやっぱり面白い。そして越後はやっぱり素晴らしい。

### 【行程】

9/9 雨池橋(7:10)～滝沢出合(7:50)～4mCS 滝(9:50)～二俣(11:55)～幕場(15:20)

9/10 出発(5:45)～左俣手前の支流（スラブ滝の沢）(6:30)～稜線(8:30?)～灰ノ又沢本流出合(11:00?)～林道(12:10)～雨池橋(12:50)  
(9/10 のコースタイムは不明確)

【地形図】 奥只見湖、平ヶ岳



稜線までスラブが続く滝、快適！